

消防団たずね歩き

六甲山地区の神戸市消防団協力事業所



農家や自営業の方が主体であった消防団員ですが、昨今はサラリーマン化が進み、団員数が減少傾向にあります。全国的に地域防災体制の低下が危惧される中、神戸屈指の観光地である六甲山地区を抱える神戸市灘消防団第8分団も例外ではありません。六甲山上で災害が発生した場合、消防署所からの駆け付けに相当の時間を要するため、消防団員の確保は急務となっています。そこで、六甲山地区の事業所を対象に、消防団員確保の重要性を広く知らせ、従業員の入団促進を呼びかけています。

この呼びかけに応じ、昨年6月に「ホテル・ド・摩耶」の従業員の方2人が入団し、灘区で初の神戸市消防団協力事業所として認定されました。次いで10月には、「阪神総合レジャー株式会社」「六甲摩耶鉄道株式会社」「六甲山ホテル」の3事業所の従業員の方5人が新たに入団し、合わせて4つの事業所が神戸市消防団協力事業所として認定されることになり、六甲山地区の地域防災体制はさらなる強化が図られました。

この呼びかけに応じ、昨年6月に「ホテル・ド・摩耶」の従業員の方2人が入団し、灘区で初の神戸市消防団協力事業所として認定されました。次いで10月には、「阪神総合レジャー株式会社」「六甲摩耶鉄道株式会社」「六甲山ホテル」の3事業所の従業員の方5人が新たに入団し、合わせて4つの事業所が神戸市消防団協力事業所として認定されることになり、六甲山地区の地域防災体制はさらなる強化が図られました。

六甲山地区では例年、6月に「六甲山防災フェア」が、秋季には「救急講習会」が、また、1月には「1・17放水訓練」がおこなわれるなど、防災活動が活発な地域です。新たに入団した事業所の従業員の方も、各種訓練に積極的に参加し、地域の方と共に災害に強いまちを作ろうと意気込んでいます。「自らの地域は自ら守る」という消防団の精神が、地域の皆さんから地域の事業所にも広く浸透してきているようです。

3月11日に発生した「東日本大震災」では大きな災害を目の当たりにしました。これを教訓に、今後ますます防災意識を高め、事業所の皆さんと力を合わせた取り組みが活性化することを願っております。

(灘消防団長 伊藤眞彦)



六甲摩耶鉄道株式会社に撮影



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

